

## インターアクトクラブに関する基礎的研究

——愛知県におけるインターアクトクラブ協議会と名古屋インターアクトクラブの事例——

林 幸 克

### 1 はじめに

2009年3月に高等学校学習指導要領が告示された。教育課程は従前どおり、各教科、総合的な学習の時間、特別活動から構成されているわけであるが、その中の特別活動に着目したい。現在の高等学校における特別活動は、1999年版学習指導要領以来、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の3つから成り立っているが、それ以前は違った。1947年学習指導要領一般編(試案)において「クラブ組織による活動」が示されてから、1989年版学習指導要領まで一貫して「クラブ活動」が構成要素として含まれていた。1999年版学習指導要領からその「クラブ活動」がなくなったのは、2002年からの完全学校週五日制との関連から授業時間数の確保が困難となること、クラブ活動と類似した教育課程外の部活動が行われていた現状を鑑みて、その部活動を一層適切に行うことでクラブ活動に代替できること、これらがクラブ活動廃止に至った主な要因である。

その部活動に関して、2009年版学習指導要領総則には、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設

や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」と記されている。そこには、部活動の教育的意義を認め、学校教育として取り組むこと、そして、学校内で完結するのではなく学校外の諸機関等と連携・協力した活動を視野に入れることが示されている。後者の視点について、スポーツ分野に関しては、総合型地域スポーツクラブ<sup>(1)</sup>が代表的なものとしてあるが、文化・芸術分野では総合型地域スポーツクラブ設立のような積極的な動きは一見するとあまりない。しかし、実際には、地域社会と連携・協力した実践を展開しているクラブが存在する。本稿では、その一例として、インターアクトクラブを取り上げ、その実態を明らかにする。

### 2 インターアクトクラブ(以下IAC)の概略<sup>(2)</sup>

IACについて、(1)定義、(2)歴史、(3)目的・目標、(4)会員構成・基盤、(5)活動内容、(6)顧問の役割、(7)その他、7つの観点から整理した。

#### (1) 定義

奉仕と国際理解に貢献する青少年のために、ロータリークラブ(以下RC)<sup>(3)</sup>が提唱した世界的な青少年団体で、高校に在学中の生徒、または年齢14～18歳までの青少年が入会できる奉仕と交歓のためのクラブである。若い世

代（新世代）が、社会生活に積極的な関心を持つとともに、指導力を培う機会となるようにロータリーが提唱したのがインターアクトである。Interactとは「国際的活動」（International Action）を意味する。国際ロータリーの奉仕クラブであり、支援や指導を与える個々のRCがスポンサーとなっているが、IACは運営面で経済的に自立しており、貴重なリーダーシップやチームワークの技能を養成する機会を多く有している。提唱RCに新しい活力をもたらすとともに、奉仕の斬新なアイデアを提起し、また、将来のロータリアンを育成する役割も担っている。そして、RCはインターアクトのプログラムの力を借りて、若い人々が責任感のある生産的な社会の一員となるために必要な手段と技能を身に付けることを促している。また、「新世代」の若者に、自分自身の力を試し、新しい技能を開発し、人生の中で直面する問題に立ち向かうようにも促している。

## (2) 歴史

1959-60年度の国際ロータリー（Rotary International：以下RI）会長ハロルド・トーマスは、世界各地のロータリアンが共通して「ロータリーは青少年奉仕を発揮する力を十分に発揮していない」という気持ちを抱いていることに気づいた。そうした中で、世界中の青少年が共に活動できるような組織を作ろうという機運はますます高まり、トーマスRI会長は1960年、5人のロータリアンからなる委員会を発足させた。2年後の1962年、RI理事会によりインターアクトプログラムが宣言され、この年、理事会は初めてのIACの発足を認証した。世界最初のIACは、アメリカ・フロリダ州メルボルンRCの提唱により10月28日に結成、23人でスタートしたメルボルン高校IACである。

その後、IACは次々と広がっていき、現在では世界各地で、青少年が様々なインターアクト活動を通じ、国際理解と親睦の輪を広げている。日本最初のIACは、1963年6月27日に結成された宮城県の仙台育英学園高校IACで、100人を超える人数で誕生した。このIACは、当時、世界最多の会員数を擁していた。仙台育英学園高校IACは、誕生してすぐ、清掃活動や小さな親切運動などの様々な活動を展開し、1967-68年度「インターアクト国際ロータリー賞」を受賞した。また、IAC設立後、海外留学が活発に行われるようになり、地区の青少年交換制度を促進するという効果ももたらした。なお、RI理事会は、RCとIACに、毎年11月5日を含む1週間を「世界インターアクト週間」（World Interact Week）として遵守するように奨励している。

## (3) 目的・目標

### 1) 目的

IACは、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で相共に活動する機会を青少年に与えるために結成されるものである。入会できる者は高校に在学中の学生または年齢14歳から18歳までの若い人である<sup>(4)</sup>。新しいIACの創立会員数は最低15名であると推奨されているが、これは義務づけられているものではない。

### 2) 目標

- ①建設的な指導力を養成し、自己の完成を図ること
- ②他人に対する思いやりと、他人の力になる心構えを奨励し、これを実践すること
- ③家庭と家族の重要性に対する認識を涵養すること
- ④個人の価値を認める考え方に立脚して、他人の権利を尊重する観念を養うこと

- ⑤個人的成功のためにも、地域社会の改善のためにも、さらには団体としての業績を上げるためにも、各人が責任を負うことがその基本であると強調すること
- ⑥すべての有用な職業は社会に奉仕する機会であるとして、その品位と価値を認識すること
- ⑦地域社会、国家および世界の問題についての知識と理解を深める機会を提供すること
- ⑧国際理解と全人類に対する善意を増進するために、個人として、また団体として、進むべき道を切り開くこと

#### (4) 会員構成・基盤

クラブの会員は多種多様である。男子のみ、女子のみのクラブもあれば、男女で構成されるクラブもあり、その規模も大小様々である。会員基盤は、同じ地域社会内の2つ以上の学校の生徒から構成される場合と、1つの学校の生徒から集められる場合があり、IACの結成基盤を地域社会にするか学校にするかを決めなければいけない。また、クラブが行う活動並びにプロジェクトに要する資金は、通常、入会金と会費・分担金とは別途に調達すべきものとされている。

##### 1) 地域社会を基盤とする場合（会員資格：年齢14歳から18歳までの青少年）

提唱RCの区域限界内にある数校から会員を集め、顧問ロータリアンはそのクラブのすべての会合に出席しなければならない。

##### 2) 学校を基盤とする場合（会員資格：高校に在学中の生徒または年齢14歳から18歳までの青少年）

提唱RCの区域限界内にある一校から会員を集める。インターアクト小委員会委員の1人が学校当局と会い、インターアクトプログラムと

そのメリットを説明する。その後も継続的にロータリアンと学校の責任者が、会員の資格条件、IAC会合の時間と場所、その他の方針を協議し決定する。理事会の会合は、提唱RCのインターアクト委員会委員の出席がなければ正式のものとは認められない。学校基盤のIACの場合、提唱RCは、そのクラブに対して、当該学校当局制定の全学生団体並びに課外活動に関するものと同一の規定・方針に従うべきものであることを了解した上で、学校当局の協力の下にIACを統制し、指導・監督するものとされる。学校のIAC顧問教員はIACの活動を監督し、RCと学校当局の間の連絡係を務める。

#### (5) 活動内容

インターアクトのプログラムでは、すべてのクラブが、指導力の開発、社会奉仕、国際理解の拡張を目指す活動を実施する。毎年、少なくとも2つの主要な社会奉仕プロジェクトを行い、そのうちの1つは学校または地域社会への奉仕、もう1つは国際理解と親善を推進するものとされている。プロジェクトを通じて、インターアクターは地域社会や海外のクラブと友情のネットワークを構築し、そのプロセスの中で、指導者としての技能を磨き、一生懸命働くことの価値を学ぶ。

##### 1) 国際理解・親善

国際奉仕の目標は、奉仕の理想に結ばれた青少年の世界的友好を通して、国際理解、親善および平和の促進を奨励・育成することである。インターアクターは、世界が理解し合い、友好を深めることができるような国際奉仕プロジェクトを計画する。また、ローターアクトクラブ結成を主導すること、ロータリー青少年指導者養成プログラム<sup>(5)</sup>に参加することもしばしばある。あるいは、青少年交換学生や国際親善奨

学生になることもある。

## 2) 地域社会への奉仕

地域社会や学校への奉仕に関する目標は、IAC会員が、その個人生活、社会生活、学校生活に、奉仕の理想を適用することを奨励・育成することにある。奉仕プロジェクトは地域社会や学校を豊かにするもので、具体的には、各種募金活動や献血運動、慈善コンサート、高齢者ホーム・児童養護施設・ホームレスシェルターの訪問などがある。

## (6) IAC顧問の役割

### 1) プロジェクトに関すること

- ①奉仕プロジェクト、特に学校内活動の実施に関して助言を与える。
- ②インターアクト行事が学校行事と重ならないように予定を立てる。
- ③放課後や週末のすべてのインターアクト活動に参加するか、付き添い役を手配する。
- ④必要な備品の調達、活動場所における準備が順調にいくよう計らう。

奉仕プロジェクトのアイデアとしては、地域社会の諸施設、青少年向けプログラム、体が不自由な人々への援助、健康および栄養管理、教育および識字率向上、飢餓追放とフード・バンク（食糧銀行）、環境保全などがある。

### 2) 学校当局に関すること

- ①クラブ員が学業の必要条件を満たすよう確認する。
- ②インターアクトに関連した全ての発表や通信を承認する。
- ③提唱RCと学校の校長・職員の間連絡係を務める。
- ④同僚や保護者から支援を請う。

### 3) 会合に関すること

クラブ員の学業負担を考慮の上、クラブ会合

は、少なくとも月2回、クラブ員にとって都合のよい日時と場所で開催しなければならない。学校を基盤とする場合は、通常、学校で会合を行う。

### 4) 諸委員会に関すること

IACには、クラブ委員会、財務委員会、奉仕委員会、国際理解委員会の4つの常任委員会がある。委員会は少なくとも月に1回の会合を開き、計画や活動を討議し、会長に報告する。

- ①クラブ委員会：出席、会員選考、プログラム、親睦、広報およびその他適当と認められる事項につき責任を負う。例会のプログラムを考案し、新会員募集と退会防止の方法や活動を広報する方法を検討する。活動の写真や説明の入ったスクラップブックなどのようなクラブの歴史的記録を維持・管理する。
- ②財務委員会：関連委員会と協力して、資金を必要とするあらゆる活動のために、資金を調達する手段・方法を考案する。会費を低く抑えることとクラブが自立を保つことを常に念頭に置きながら、活動の資金調達法を決定する。
- ③奉仕委員会：国際奉仕以外の分野において、毎年クラブの全員または大多数が参加し、学校や地域社会に恩恵をもたらす主要な奉仕プロジェクトを少なくとも一つ考案する。
- ④国際理解委員会：クラブ員の間、学校や地域社会の中、その他の領域において、国際理解を深める方法を考案することを第一の任務としている。その担当分野において毎年全クラブ員または大多数が参加する主要な国際親善を推進する活動の一つ創案し、計画する任務を有する。

## (7) その他

IACは、奉仕活動を通じて、①指導力と誠実

な人格の育成、②他者を尊重し、進んで助ける態度、③各自の責任を果たし、一生懸命努力することの貴さ、④国際理解と親善の推進、この4つの事柄の重要性を学ぶ。

奉仕活動以外には、次の活動などがある。

- ①RCの例会で卓話をし、あるロータリアンについてその専門職に関して学び、RCがスポンサーする職業説明会に出席することで、自分の将来を開拓する準備を開始する。
- ②高齢者、障害を持った児童、ホームレス、その他の地域社会の人々に奉仕することで、視野を広める。
- ③環境を改善し、ポリオを撲滅し、薬物への認識を高め、他の地域社会問題に取り組むためのプロジェクトを企画することで、職業倫理と個人的責任感を強化する。
- ④海外のインターアクターとコミュニケーションを取り、活動を共にすることで、他の文化を知る。

以上が、IACの概略である。IACは世界各国にあり、そこにおける共通理解・原則がここに示したものである。そのため、日本の文化や現状等から鑑みて違和感を覚える部分があるかもしれない。また、厳密にここに示された活動を展開しなければIACやその活動として成立しないというわけではない。ロータリーとの関連も含め、それぞれのIACを取り巻く環境や諸条件などを加味して、その実情に即した活動が行われているのが現状である。

### 3 事例研究Ⅰ：国際ロータリー第2760地区（以下第2760地区）におけるIAC協議会（以下協議会）

本節では、第2760地区（愛知県）におけ

る協議会に着目する<sup>6)</sup>。その中でも、1998～2008年に行われた協議会の内容を分析し、その実情を明らかにする。

#### (1) 第2760地区のIAC

第2760地区には、2009年3月現在で15のIACがある。その15クラブの基礎データと会員数の推移を示したのが表1、表2である。

世界で初めてIACが結成された2年後の1964年10月に第2760地区で最初のIAC（豊川高等学校IAC）が誕生した。以降、1960年代に5クラブ、1970年代に2クラブ、1980年代に3クラブ、1990年代に6クラブ、2000年以降に1クラブができ、約45年間で16クラブが誕生し、1クラブが解散していった。

2009年3月現在の15クラブに着目すると、学校基盤のIACが14クラブ、地域社会基盤のIACが1クラブである。前者のうち10クラブが私立学校に属している。これは、私立学校の理事長や学校長等の学校幹部関係者自身がロータリーであるケースがあること、それと関連して学校としてIACに理解があることなどを背景にIACを設立するに至っていることが多いようである。また、校長や顧問が頻繁に交代することはなく、一貫した方針のもとで継続的な活動が可能であるために、私立学校に設置・定着しやすいものと考えられる。見方を変えれば、県立高校のように校長等の管理職やIACの顧問である教員の異動がある場合は、私立学校におけるIACのようなクラブ運営が困難であるため、設置・定着が容易ではない側面があるものと思われる。

会員数の推移をみると、年度によって増減が激しいことがわかる。最も多かったのが2001年（16クラブ）の459人であったのに対して、2008年（15クラブ）は318人と最少人数である。

表1 第2760地区IAC基礎データ

2009年3月31日現在

クラブ名	国公立別	提唱RC	創立年月日
豊川高等学校IAC	私	豊川	1964.10.9
豊田工業高等専門学校IAC	国	豊田	1965.1.25
豊橋商業高等学校IAC	県	豊橋	1965.10.16
岡崎城西高等学校IAC	私	岡崎南	1967.8.21
名古屋IAC	—	名古屋	1968.6.15
人間環境大学岡崎学園高等学校IAC <sup>(1)</sup>	私	岡崎南	1971.11.27
安城学園高等学校IAC	私	安城	1977.4.1
清林館高等学校IAC <sup>(2)</sup>	私	津島	1981.5.2
修文女子高等学校IAC <sup>(3)</sup>	私	一宮北・一宮・尾西・一宮中央	1984.9.14
光ヶ丘女子高等学校IAC	私	岡崎東	1992.12.19
阿久比高等学校IAC	県	東知多	1994.3.6
千種高等学校IAC	県	名古屋名東	1995.6.24
桜花学園高等学校IAC <sup>(4)</sup>	私	名古屋東・名古屋千種・名古屋昭和	1995.7.11
美和高等学校IAC <sup>(5)</sup>	県	あま	1998.4.13
尾関学園高等学校IAC	私	小牧	1998.11.22
春日丘高等学校IAC	私	春日井・豊山一城北・名古屋空港	2001.4.28

(1) 旧岡崎女子高等学校, 岡崎学園高等学校

(2) 旧津島女子高等学校

(3) 旧一宮女子高等学校

(4) 旧名古屋短期大学付属高等学校

(5) 1998年度から2002年度まで加盟

最低創立会員数とされる15名を基準にすると、年によってはそれを下回るIACがあることがわかる。これと総会員数を比較すると、15名に満たないIACが1クラブの場合は、当該年の会員数の増減は比較的少なく、400名を維持していることがわかる。その一方で、15名未満のクラブが複数存在する年は会員数が大きく減少し、350名のラインを上下している。クラブによって、あるいは年度によって会員数の増減があることは仕方ないことであるが、その増減幅が広がることや15名に満たないクラブが複数

出現することは憂慮すべき事項であると思われる。

## (2) 協議会

次に、第2760地区で行われている協議会について、その特徴を捉えてみることにする。

開催日時・場所については、学校が夏期休業に入ってしまうと、ホスト校となるIACやそのIACの提唱RCのある地区で協議会は開催されている。開催日を7月20日に固定した開催が続いた(1999年～2003年)が2004年(第15回)

表2 年別会員数の推移（1998～2008年）

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
豊川高等学校 IAC	25	27	25	48	25	25	24	23	28	28	17
豊田工業高等専門学校 IAC	30	23	29	28	24	24	24	14	20	13	12
豊橋商業高等学校 IAC	29	27	27	26	13	13	28	22	39	39	34
岡崎城西高等学校 IAC	21	26	18	20	16	16	19	18	18	25	23
名古屋 IAC	10	11	11	13	13	13	18	14	15	15	15
人間環境大学岡崎学園高等学校 IAC	52	41	49	47	34	34	26	23	21	11	21
安城学園高等学校 IAC	25	36	22	26	26	26	18	18	9	7	5
清林館高等学校 IAC	40	35	30	15	20	20	17	22	20	26	11
修文女子高等学校 IAC	38	23	19	19	11	11	24	22	19	14	11
光ヶ丘女子高等学校 IAC	60	65	46	37	28	28	35	42	40	34	38
阿久比高等学校 IAC	16	15	16	15	15	15	13	30	24	14	18
千種高等学校 IAC	40	41	44	40	24	24	20	6	30	40	13
桜花学園高等学校 IAC	23	16	18	21	24	24	35	31	28	25	36
美和高等学校 IAC	16	17	20	31	31	—	—	—	—	—	—
尾関学園高等学校 IAC	—	27	54	46	36	36	43	45	43	11	23
春日丘高等学校 IAC	—	—	—	27	12	12	63	55	55	56	41
合計	425	430	428	459	352	321	407	385	409	358	318
会員数15名未満の IAC 数	1	1	1	1	4	4	1	3	1	6	5

からは「海の日」が開催日とされている。

内容・運営に関しては、全体テーマが設定され、それに基づいた分科会が持たれている。共通プログラムとしては、歓迎レセプションという位置づけでイベント的な活動を行うケースと、協議会テーマを反映させた基調講演を行うケースに二分することができる。全体会の後に分科会が行われるが、5～10程度の分科会に分かれ、全体テーマを加味した分科会のテーマについて、90分程度の時間をかけて深めていくケースが一般的である。1998～2008年の分科会のテーマをみると、高齢者福祉や車椅子、視聴覚障害、手話など福祉に関するを取り

上げたもの、国際理解に関することを扱った分科会が比較的多いことがわかる。IACの活動内容の2つの柱が「国際理解・親善」と「地域社会への奉仕」であることを勘案すると、それが分科会にも反映されているといえる。なお、「地域社会への奉仕」に関しては、福祉の観点からのアプローチが多いことがうかがえる。

参加者の属性に着目すると、年度によって変動はあるものの、男子2割、女子8割という比率で、女子が中心となった協議会、さらに言えばIACの主たるメンバーは女子であるとみることができる。また、出席率に目を移すと、これも年度によって差が大きい。90%近い出席

表3 IAC協議会の概略(1998～2008年度)

回	開催日	会場	ホスト	協議会 テーマ	共通 プログラム	分科会名称 (分科会別参加生徒数)	全体	男子	女子	分科会 の時間	出席率 (出席者数 / 会員数)
9	1998.7.19 (日)	一宮スポーツ文化センター	一宮RC・一宮RC・尾西RC・一宮中央RC・一宮女子高等学校IAC	愛	音楽会(和太鼓の演奏)(30分)	①お年寄りと遊ぶ(39名) ②盲導犬とのふれあい『見えない』ってどんな感じ?(54名) ③リサイクルに挑戦しよう(41名) ④手話で歌おう(82名) ⑤国境を越えてゲームで遊ぼう(52名) ⑥車椅子を体験しよう(57名)	325 (100.0%)	42 (12.9%)	283 (87.1%)	75分	76.5% (325/425)
10	1999.7.20 (火)	岡崎信用金庫本店	岡崎東RC・英ヶ丘女子高等学校IAC	はばだけ21世紀へ～私たち地球家族、分ちち合い、支えあいまし、ほほえみあつて～	歓迎会(地球家族の輪を広げよう、この感動を共に)(30分)	①第2の人生を歩み始めて ②負けないぞう ③インドの女とふれ合いを ④手話でコミュニケーションを ⑤気づくことから始めよう ⑥高齢者と分かち合う心を	358 (100.0%)	70 (19.6%)	288 (80.4%)	90分	83.3% (358/430)
11	2000.7.20 (木)	大府市勤労文化会館	東知多RC・阿久比高等学校IAC	ゆう～あたらしい“ゆう”をみつかせんか!～	映画鑑賞「アイ・ラブ・ユー」(115分)	①～⑧(映画の感想、映画の中から見つけ出した問題点、日頃障害者と接していて感じていること)	303 (100.0%)	55 (18.2%)	248 (81.8%)	90分	70.8% (303/428)
12	2001.7.20 (金)	名古屋ガーデンパレス	名古屋名東RC・千種高等学校IAC	未来へ向けて～異文化をもっと知ろう!～	基調講演「異文化を理解するために」(60分)	①ブラジル(68名) ②アメリカ(70名) ③フランス(69名) ④イラン(53名) ⑤インドネシア(69名)	316 (100.0%)	73 (23.1%)	243 (76.9%)	90分	68.8% (316/459)
13	2002.7.20 (土)	ウェスティンナゴヤキャッスル	名古屋東・千種・昭和RC・桜花学園高等学校IAC	スマイル	基調講演「思い込み・勘違い・あー失敗」(60分)	①視覚障害者に対するガイドヘルプ(39名) ②点字体験(38名) ③障害の理解(車椅子体験を通して)(32名) ④手と手で伝え合ってみよう(30名) ⑤高齢者疑似体験(30名) ⑥おりがみ体験講座(30名) ⑦たのしい音楽療法(30名) ⑧みんなで遊ぼう!(27名)	217 (100.0%)	26 (12.0%)	191 (88.0%)	90分	61.6% (217/352)
14	2003.7.20 (日)	小牧勤労センター	小牧RC・尾関学園高等学校IAC	おもいやり	基調講演「夢」(40分)	①体験。ハートフルカー(34名) ②対決! 車椅子バスケットボール(38名) ③守ろう自然!(45名) ④ロールプレイ。福祉レクリエーション(38名) ⑤聞こえないってどういこと?(34名) ⑥作ろう朗読テープ(33名) ⑦唄おう♪ 中国語(39名)	261 (100.0%)	—	—	90分	81.3% (261/321)
15	2004.7.19 (月)	中部大学	春日井・名古屋空港・豊山城北RC・春日丘高等学校IAC	で愛・ふれ愛・ささえ愛	基調講演「BRIGHT EYES」(聴覚障害をもつ人たちが結成したバンドによる演奏)(50分)	①平和の大切さについて考えよう(76名) ②盲導犬について(47名) ③大正琴を演奏してみませんか(21名) ④思春期の親子関係と心の危機(48名) ⑤高校生福祉体験の意義(51名) ⑥知っているのと得をする介護方法(48名) ⑦現在の日本人の豊かさについて考えよう(33名)	324 (100.0%)	—	—	70分	79.6% (324/407)
16	2005.7.18 (月)	豊川高等学校	豊川RC・豊田高等学校IAC	虹～心の架け橋～	基調講演「障害を乗り越え 発明人生」(50分)	①「ガイドヘルプ」体験(40名) ②車椅子で街へ出よう(39名) ③聴覚障害者と手話(39名) ④国際理解「Fast Foodの世界(45名) ⑤生きがいづくり支那と若者に求められるもの(51名) ⑥障害を持った方が地域に生きるには(54名) ⑦点字体験(44名)	312 (100.0%)	—	—	90分	81.0% (312/385)
17	2006.7.17 (月)	豊田市市民会館	豊田RC・豊田工業高等学校IAC	創造～僕らの未来像～	オーブニングセレモニー(紹介スライドショー)(45分)	①ロボコンとロボカップの世界(34名) ②エコーカーの世界(32名) ③からくり人形の世界(34名) ④ここがへんだよ、日本人(21名) ⑤燃料電池を作ろう!(36名) ⑥楽しい! 折り紙体験(30名) ⑦コンクリートでロボットの世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名) ⑧みんなで作遊び!! 隣の世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名) ⑨みんなで作遊び!! 隣の世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名) ⑩みんなで作遊び!! 隣の世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名) ⑪みんなで作遊び!! 隣の世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名) ⑫みんなで作遊び!! 隣の世界情勢一直線と差別をなくせよう(36名)	290 (100.0%)	56 (19.3%)	234 (80.7%)	90分	70.9% (290/409)
18	2007.7.16 (月)	豊橋RC・豊橋商業高等学校IAC	豊橋RC・豊橋商業高等学校IAC	心と心で会話しよう in Toyohashi	特になし	①パルアンアート(26名) ②連風(21名) ③遊びのフーズの作り方(17名) ④市電でGO!(13名) ⑤ちくわにトライ(19名) ⑥豊橋華(20名) ⑦中国語と中国の文化について(19名) ⑧昔の遊び(18名) ⑨アミーゴ! フランクル(22名) ⑩手遊び&絵本作り(17名) ⑪あしむ字ぶ、国際&環境問題にゅーもん(17名)	209 (100.0%)	38 (18.2%)	171 (81.8%)	130分	58.4% (209/358)
19	2008.7.21 (月)	岡崎信用金庫本店	岡崎南RC・岡崎城西高等学校IAC	「Building Friendships」～無限の可能性に向かって～	記念講演「手がないという能力」(30分)	①車椅子にチャレンジ(41名) ②盲人ガイドヘルプにチャレンジ(45名) ③あそびの部屋～自分で作る遊び～(30名) ④音楽で国際理解(61名) ⑤レッツダンス《サルサ》(78名) ⑥クイズで国際理解(27名)	282 (100.0%)	—	—	90分	88.7% (282/318)



率の時もあれば(2008年)、60%程度の出席率の年もある(2002年、2007年)。協議会の位置づけからすると100%に近い出席率が期待されそうなものであるが、現実とは異なる。このことから、IACに所属はしているものの、協議会以外の別の所用を優先させている生徒が一定数存在するという事実、あるいは可能性があり、常日頃から強制的な参加を伴う活動を行うことはしないで、生徒の自主性・主体性を尊重した実践が展開されているのではないかと推察される。

#### 4 事例研究Ⅱ：名古屋IAC

本節では、第2760地区のIACの中で、唯一の地域社会を基盤としたクラブである名古屋IACの事例を取り上げる。「地域社会を基盤とした」と表記しているが、具体的には、名古屋YMCA<sup>(7)</sup>の支援を受けて活動を展開している。筆者は、2007年10月から名古屋IACの例会<sup>(8)</sup>や諸活動の見学を続けており、その成果の一端を報告する。

##### (1) 名古屋IACの活動

名古屋IACの主な活動は、大きく3つに分類することができる。第一は、オーストラリア海外派遣研修やIAC協議会など、他のIACと共通で行っているもの(以下共通プログラム)、第二は、古民家体験研修合宿や東山動物園パンダボランティア、美浜町小野浦海岸浜掃除など名古屋IACが独自で行っているもの(以下独自プログラム)、第三は、名古屋YMCAチャリティーランや名古屋YMCAクリスマスキャロルinタワーズライツなど、YMCAや外部諸機関・団体との関連で行っているもの(協働プログラム)である。

地域社会に基盤を置いているIACの活動ということもあるためか、地域の諸機関・団体や支援を受けているYMCA関連の協働プログラム(11プログラム)が比較的多い。共通プログラム(8プログラム)と独自プログラム(6プログラム)はほぼ同程度であるが2つを合わせると14プログラムとなり、活動全体としてみると、IAC主体のプログラムが過半数を超えることになる。なお、独自プログラムに関して、独自で企画・運営するものではあるが、名古屋IAC内だけで完結するものではない。独自プログラムへの参加は他のIACに対しても開放されており、参加呼びかけの広報活動も行っている。共通プログラム以外でIACが相互に交流する機会はあまりなく、独自プログラムはそうした場を提供・補完する役割を担っていると捉えることができる。

##### (2) 名古屋IACの特徴

初めて例会に参加したメンバーは、そこで既存のメンバーと様々な情報交換を行い、ニックネームを決める。例会や活動中は、学校や学年・年齢に関係なく、そのニックネームで呼び合っている。表5に示した参加者の表記はそのニックネームである。

###### ①メンバー構成

名古屋IACは、学校基盤のIACのように1つの学校の生徒から構成されるのではなく、愛知県内の様々な高等学校から生徒が集まり活動を展開している。2008年度は13校の高校生が例会などに参加した。また、表2の会員数の推移をみてもわかるように、15名を超えることはなく、少人数で構成されている。そのメンバーの属性をみると、2008年度は、男子9人(ドクター、レバズキ、チブ、つらら、カバディ、なめこ、ミツヒデ、ラオウ、キューブ)、女子

表4 名古屋IACの2007（平成19）年度の主な活動（例会を除く）

月	内容	活動分類 <sup>(注)</sup>
4	古民家体験研修合宿	独自
	新年度花見交流会&鶴舞公園清掃ボランティア	独自
5	東海ワイズメンズクラブ50周年記念会手伝い	協働
	桜花学園主催 恋の三社めぐり参加&手伝い	協働
6	名古屋市東区社会福祉協議会 東ほっとネット会員総会	協働
	オーストラリア海外派遣研修事前研修会	共通
	東山動物園パンダボランティア	独自
7	オーストラリア海外派遣研修事前研修会	共通
	オーストラリア海外派遣研修	共通
	IAC協議会	共通
8	古民家体験研修合宿	独自
	オーストラリア海外派遣研修事後研修会	共通
9	—	—
10	東区なごやか祭り	協働
	美浜町小野浦海岸浜掃除	独自
11	名古屋YMCAチャリティーラン	協働
	東海ワイズメンズクラブ11月例会	協働
	次期役員研修会	共通
	日本YMCA大会参加	協働
	RC地区大会	共通
12	東海ワイズメンズクラブクリスマス会	協働
	名古屋YMCAクリスマスキャロルinタワーズライツ	協働
1	—	—
2	人道に関する国際会議	共通
	名古屋市東区社会福祉協議会 東ほっとネット交流会	協働
	東山動物園パンダボランティア	独自
3	次年度協議会事前打ち合わせ会	共通

(注)「共通」：他のIACと一緒にを行う共通プログラム

「独自」：名古屋IACが独自に企画・運営しているプログラム

「協働」：外部の諸機関・団体が主となって行う活動に参加・協力するプログラム

15人(表5中の男子を除く全員)で女子の方が多かった。所属高校に関しては、所属高校のIACで活動しながら名古屋IACでも活動をするケース(表5中の二重囲み)、所属高校にIACはあるもののそこには入らないで名古屋IACで活動しているケース(同太字斜体)、家族がIACやRCに入っていて誘われたケース、名古屋IACの知り合いから誘われたケースなど様々である。それらに共通しているのは周囲にIACの関係者・理解者がいるということである。もちろん例外もあるが、それはきわめて稀である。

## ②活動環境

例会は通常土曜日の午後にあるため、平日に所属高校で別の部活動などに取り組んでいても、空いた時間を調整するなどして参加することができる。また、教員がいないことも特徴である。顧問・副顧問はいるが、学校教育的な指導をすることはなく、あくまでも高校生の自主性・主体性に任せている。そうした自由な雰囲気の下で活動が展開されている。具体的な活動は表4に示した通りであるが、伝統的に行っている活動はもちろん、メンバーが自ら活動を探して持ち込み、それに取り組むケースもある。

また、活動情報の共有化を図るという観点から、ブログを有効活用していることも特筆すべき点である。公式ブログを開設しており、欠席しても例会等の状況がわかり、次回からの参加に心理的抵抗感をなくす配慮が為されている。対外的に名古屋IACの活動をPRするという役割も果たしているが、現状ではメンバー間の集団凝集性を高めることに主眼が置かれているという印象が強い。また、メーリング・リスト(以下ML)もあり、定常的な情報交換はもちろん、緊急連絡等にも効果的に活用されている。

## (3) 例会等への参加状況

それでは例会等への参加状況について、その変化を辿りながら現状と課題を検討する。

### ①2008年度の状況

2008年度(2008年4月～2009年3月)に着目すると、在籍者数は24人(3年生10人,2年生10人,1年生4人)である。この中で2回以上出席しているのは17人(同8人,6人,3人)である。7人は1回以下の出席(内4人は6月までの出席)で、それ以降は一度も出席していないという状況である。このことから、既に名古屋IACで活動している友人などに誘われたりする形で例会に一度は出席するものの、それが継続していないことがわかる(7人中5人該当)。これには様々な要因があると思われるが、名古屋IACの活動や運営方針などに賛同できないことや高校生として様々な活動をしている中で名古屋IACでの活動の位置づけが相対的に下位にあることなどが考えられる。また、勧誘される時点で、友人から名古屋IACについてきちんとした説明がなされておらず、曖昧な理解のままよりあえず出席したのはいいが、結局何なのかが十分に把握できないまま出席しなくなるという結果になったとも推察される。

その一方で、10月以降出席するようになり、それが3月まで継続するケース(ねぎ,なめこ,ポニョ)もある。この要因としては、7～8月に行われるオーストラリア海外派遣研修(以下オーストラリア研修)<sup>⑨</sup>の存在が挙げられる。IACの高校生が交流する機会はそれほど多くはなく、協議会でもその場限りの交流に終始する場合が多い。それに対して、オーストラリア研修は事前事後の研修も含めて、高校生が相互に知り合い、交流する機会が潤沢にある。また、参加者でアイデアを出し合い、一緒に物事を創造すること、その成果をプレゼンター

表5 名古屋IACの例会

出席者 日時	2007年			2008年			日時	2008年			2009年			2008年度 出席数 (出席率%)					
	12月15日 (土) 14:20 ~ 17:40	1月26日 (土) 14:40 ~ 16:45	2月9日 (土) 14:00 ~ 16:30	3月8日 (土) 14:15 ~ 16:45	3月22日 (土) 11:00 ~ 17:30	4月12日 (土) 14:45 ~ 15:45		5月10日 (土) 14:25 ~ 16:50	6月14日 (土) 14:30 ~ 18:00	6月28日 (土) 午前 ~ 16:40	7月5日 (土) 14:05 ~ 17:15	8月2日 (土) 14:30 ~ 17:10	10月4日 (土) 14:30 ~ 18:30		10月25日 (土) 14:25 ~ 16:30	11月8日 (土) 14:10 ~ 17:20	1月10日 (土) 14:15 ~ 17:30	1月23日 (土) 14:25 ~ 18:05	2月21日 (土) 14:30 ~ 18:10
【3年生】 バーシー ミンミン おふろ あられ			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6 (46.2) 3 (23.1) 1 (7.7) 1 (7.7)
【2年生】 じゅんいちさん ドクター レバズキ チブ マープル つらら カバディ シェフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11 (84.6) 5 (38.5) 11 (84.6) 10 (76.9) 10 (76.9) 1 (7.7) 0 (0.0) 9 (69.2) 6 (46.2)
【1年生】 フランキー 弘法 ショコラ ししゃも ララバイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10 (76.9) 7 (53.8) 9 (69.2) 1 (7.7) 9 (69.2) 1 (7.7) 1 (7.7) 7 (53.8) 1 (7.7) 2 (15.4)
高校生 出席者数	5	6	7	10	12	5	10	9	7	7	11	7	10	11	12	7	13		
高校生 出席者数	高校生 出席者数																		

ションする機会も豊富にあるため、オーストラリア研修を通して相互理解が深まり、信頼関係が構築されやすい。それを今回のケースに当てはめると、オーストラリア研修で一緒になった他のIACの友人が名古屋IACの活動に参加するようになったと捉えることが可能である。このことを勘案すると、オーストラリア研修に限らず、これに類似した活動機会があれば、IAC間の交流がより活発になり、様々な相乗効果が期待できるものと思われる。

1年生の動向にも注目したい。2008年1月・2月になって2人（キューブ、トロロ）が継続的に参加するようになった。名古屋IACとして1年生が少ないことを懸念して様々な方面に声をかけてメンバーの獲得を画策してきたその成果の一端としてみる事ができる。なお、両者ともに“身内”（RC関係者の家族、名古屋IACメンバーの兄弟姉妹）である。

別の視点からみると、2～3回（1ヶ月から長いと3ヶ月近く）例会を休むケースが散見される。通常、数週間、数ヶ月期間例会に出席していないと、その次の例会に出席するのに相当の心理的抵抗感が生まれそうなものであるが、名古屋IACの場合にはそれが無い。その要因には、直接参加ができなくても、間接参加が可能である点にあると思われる。先述したMLやブログの効果が大きく、MLやブログを媒介にして、欠席している間の議題や進行状況などを把握することができ、それに対してコメントをすることもできる。そうした関わり方ができることによって、欠席期間が長くても抵抗感・違和感なく参加できる環境が整えられていると考えられる。また、そうした間接参加を受け入れる土壌が名古屋IACに備わっていることも看過できない。

②2007年度から2008年度にかけての動き

2007年度に在籍した2年生（2008年度3年生）は8人、1年生は5人（同2年生）である。それが2008年度には各々10人となっている。これは、先述したように、オーストラリア研修などの諸行事を通じて信頼関係を構築した友人が、2008年度（特に夏以降）に増加したものと解釈することができる。特に2008年度2年生（10人）が、前年度1年生の時（5人）倍増したことは注目に値する。高校2年生という時期は、様々な行事に参加しやすく、新規メンバーを獲得するには最適な期間であると思われる。逆にこの期間にメンバー獲得ができないと、名古屋IAC全体としての活性化に不安が残ることになるのではないかと考えられる。これは、毎年新入生が入り、そこからIACに勧誘するという学校基盤のIACとの大きな違いである。

## 5 おわりに

本稿は、IACに関する基礎的研究という位置づけで、その概略と愛知県内15クラブが参加する協議会、個別IACの事例として名古屋IACを取り上げて整理した。それを踏まえて、今後の課題を提示しまとめにかえることとする。

学校基盤のIACは高等学校の部活動に位置づくものである。そのIACの存在を巨視的に捉えれば、数多くある文化・芸術系部の一つであり、そうした文化・芸術系の部活が加盟する全国高等学校文化連盟との関連を明らかにする必要がある。それを検討することで、IACが全国高等学校文化連盟とは一線を画した実践を展開しているのか否か、類似の各種ボランティア部との差異化をどのように図っているのかを分析・考察することにつながる。また、それに関連して、愛知県だけではなく全国的な動向を把握することも求められる。全国的な取り組みと

比較検討することで、愛知県における15クラブの独自性がより鮮明になるものと思われる。

微視的に捉えれば、愛知県における学校基盤のIACの実践を掌握することが課題として指摘できる。本稿では地域社会基盤の名古屋IACを取り上げたため、それ以外のIACについても分析・考察を深め、私立学校と公立学校の差異に着目しながら、愛知県の全体像を明らかにすることが求められる。また、名古屋IACに関しても、個別の具体的な活動について詳述することができなかつた。愛知県内唯一の地域社会基盤のIACであるだけに、より丁寧にその内容を吟味する必要がある。

## 注記・引用文献

- (1) 総合型地域スポーツクラブは次のように説明される。「総合型」とは、3つの多様性を包含していることを指しています。一つは種目の多様性、一つは世代や年齢の多様性、そして、もう一つは技術レベルの多様性です。総合型地域スポーツクラブは、こうした多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個人々のニーズに応じた活動が質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブ」(文部科学省『「総合型地域スポーツクラブ」育成マニュアル クラブづくりの4つのドア』2001年, p. 4)
- (2) 本節に関しては、「ロータリーの基礎知識」(<http://www.rotary.or.jp/basic/index.html>)を参照した。
- (3) 1905年に創始されたロータリーは、世界で最初の奉仕団体で、そのモットーは「超我の奉仕」である。ロータリーの奉仕部門はクラブ活動を通じての地域社会と国際的ボランティア奉仕とあらゆる職業における倫理の増進を含んでいる。ロータリーの会員をロータリアンと称し、週に1度集まり、奉仕活動を計画する。RCは自治を重んじた組織であり、地元のニーズや関心、会員の力量に基づき単独で奉仕プロジェクトを決めることができる。宗教的・政治的色調のない組織で、人種、文化、信条の別なく、全ての人たちに開かれている。
- (4) 年齢に関して、14歳から18歳という区分は、最初のIACがアメリカで誕生したことが関連していると思われるが、アメリカの4年生ハイスクールに所属する子どもの年齢と合致する。(文部科学省『諸外国の教育動向2007年度版』2008年, 明石書店, p. 331)
- (5) ローターアクトクラブなどは、14歳から30歳までの青少年の指導能力を認め、奨励するためにセミナーを行っている。その一環としてロータリー青少年指導者養成プログラム(通称ライラ=Ryla: Rotary Youth Leader Awards)がある。これは、特定の年齢層の関心に合わせ、指導力育成、職業技能養成に焦点を当てた行事を開催するプログラムで、ロータリアンが提唱するものである。
- (6) IAC協議会とは「1年に1度(毎年7月)に愛知県内のすべてのIACが集まる最大のイベントです。内容は、1つのテーマのもと、さまざまな分科会で活動体験・意見交換をしたり、生徒同士で交流をします。この行事は、各学校が順番でホスト校になり、生徒の自主的運営のもとで開催されます。参加者は、他校との交流を深めつつ、日頃の悩みや活動を共有します。そして、多くの友人を作ることができ、インターアクトの輪が広がっていきます。」と定義されている(リーフレット「集まれ! インターアクトクラブ ~You can do it! ~」)。
- (7) YMCA (Young Men's Christian Association) とは「キリスト教精神に基づき、すべての人々の全人的な成長と平和で民主的な社会をめざす、世界最大規模の青少年団体である。(中略) 都市YMCAと学生YMCAがあり、体育活動や文化教養活動、ボランティア活動、また教育施設や福祉施設、大学では学生寮の運営など様々な活動を行っている。」とされる(社会福祉法人大阪ボランティア協会編『ボランティア・NPO用語事

典』中央法規, 2004年, p. 185)

- (8) 例会の見学に関して, 期間中のすべての例会に参加したわけではなく, また, 見学した全部の例会に最初から最後まで同席したわけではない。そのため, 筆者が見学し, 確実に確認できた記録に基づいた論述であることを付記しておく。
- (9) オーストラリア海外派遣研修とは, 「国際交流」の一環として, 毎年夏休み(約10日間)を利用

して実施されるもので, 各IACから2~3名が派遣される。現地では, ホームステイを中心に, 現地の高校を訪問し, 一緒に授業を受けたり, 交流をする。この研修を通じて, インターアクト同志の絆も深まり, 今後の交流にも大きな成果を発揮する(リーフレット「集まれ! インターアクトクラブ ~ You can do it! ~」)。